熊本再春医療センター医療連携室だより

再春

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

令和６年 第１号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春医療センター
編　集：地域医療連携室

熊本再春医療センターホームページ　https://saishun.hosp.go.jp/

昨年10月に当院の屋上から撮影した写真です。8月に御代志木原野線の交差点移設工事が完了し、病院前の道路が通りやすくなりました。

病院の理念

思いやりの心で
患者、地域、職員に愛される病院

病院運営の基本方針

1. 治し、支える医療の実践
2. 専門医療の推進
3. チーム医療の実践
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定
6. 働きがいのある職場作り

Contents

1. 院長あいさつ ……2
2. 診療科紹介【代謝内科】……3
3. 病棟・部門紹介【3階病棟】……4
4. 開放型病院登録医紹介【さとう胃腸内科クリニック】‥4
5. 病棟・部門紹介【地域医療連携室】……5
6. 開放型病院登録医紹介【下田内科クリニック】‥‥5
7. 第77回国立病院総合医学会に行ってきました!! ‥‥6
8. 第17回健康フェスティバル ……7
9. 病院機能評価認定更新のお知らせ ……7
10.『がんサロン再春』・『難病サロン再春』の再開について ‥‥8
11.地域医療連携連絡協議会について ……8

新年のご挨拶

病院長　上山　秀嗣

新年あけましておめでとうございます。平素より皆様方には医療連携を始めとして多大なるご協力とご支援を頂きまして厚く御礼申し上げます。

熊本県における新型コロナウイルス感染症の第１例目の発生から 3 年半が経過しました。新型コロナウイルスは当初中国武漢発のオリジナル株のみだったのですが、その後自ら遺伝子変異を繰り返し、アルファ株、デルタ株、そしてオミクロン株へと変化していきました。臨床症状は当初の重症肺炎から徐々に軽症化していく一方、感染力は増強し、現在の XBB 株に至っています。そして、令和５年５月８日から５類感染症へと移行しました。昨年夏に到来した第 9 波も現在はピークアウトしましたが、インフルエンザ A が季節外れの大流行となり、この冬にはインフルエンザとコロナの同時流行が危惧されているところです。

当院は令和 5 年 9 月末をもちましてコロナ入院患者のための専用病棟を廃止し、一般病棟に戻しました。10 月からはコロナの入院患者は一般病棟で診療していますが、もしも感染者が急増した場合の対応には苦慮するものと思われます。そして、国からの空床補助金はほぼ出なくなり、光熱費や医薬品・医療材料費等も高騰していますので、今後の病院経営は困難を極めることが予想されます。

コロナ禍により開催できませんでした関連医療機関の皆様との連携の会、「**医療連携の集い**」を令和５年６月３日（土）にホテル日航熊本において 4 年ぶりに開催しました。久しぶりの対面開催であり、どれ程の方にご来場頂けるのか不安でしたが、お蔭様で 200 名弱の医療関係者の皆様に参加して頂き、盛況のうちに無事終了することができましたことを厚く御礼申し上げます。なお、次回は **令和６年６月８日（土）**、同じくホテル日航熊本において開催予定ですのでご案内申し上げます。

令和元年 11 月に着工しました合志市による「御代志地区土地整備事業」ですが、熊本電気鉄道「再春医療センター前駅」の移設工事に引き続き、昨年 8 月には御代志木原野線の交差点の移設工事が完了しました。これまで病院に入るためには S 字クランクのようなくねくねしたう回路を通る必要があったのですが、すっきりと通れるようになりました。今後、令和 6 年度末を目途に各種商業施設が建設される予定ですので、病院前は一層賑やかになると期待しています。

当院は熊本県における地域医療支援病院、難病診療分野別拠点病院、県指定がん診療連携拠点病院、地域医療連携拠点病院として責任ある地域医療への貢献に努めてまいりますので、皆様には今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

診療科紹介　代謝内科

代謝内科部長　猪島　俊朗

◆スタッフ紹介

代謝内科部長　　猪島　俊朗　（平成 12 年卒）
代謝内科医長　　板坂　美奈　（平成 14 年卒）

◆代謝内科の基本方針

当科では糖尿病（1 型、2 型、二次性など）、脂質異常症、高血圧、肥満症、高尿酸血症などの代謝疾患、甲状腺（バセドウ病、甲状腺機能低下症）や副腎などの内分泌疾患などを中心に治療を行っております。

糖尿病に対しては　食事療法、運動療法を基本に、それぞれの患者様の病態や血糖の状況に合わせた薬剤選択（経口薬、インスリンなど）を行いなるべく必要最小限の薬剤でより良い血糖コントロールを長期に維持できるよう調整を検討いたします。

糖尿病は放置していると、全身の動脈硬化性変化を来たし眼や腎臓、神経障害や狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などの合併症のリスクが高まります。

また癌や認知症のリスクにもつながることが分かっています。各種合併症については循環器内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器外科、整形外科など各診療科と連携して診療を行ってまいります。

ほかの病気や手術などで他科に入院された糖尿病患者さんの期間中の血糖管理についても行います。

甲状腺や副腎疾患などの内分泌疾患については、外科や放射線科のご協力を頂きながら診断のための負荷試験や治療を行います。必要に応じて熊本大学病院糖尿病代謝内分泌内科などの高次医療機関との連携して参ります。

◆糖尿病検査入院について

糖尿病で血糖高値の状態が続く場合には、全身精査や血糖コントロールのため検査入院を行う場合もあります。1 ～ 2 週間の入院で全身精査も含め治療を行います。

入院中に短期間インスリン治療を行うことで、インスリンを産生する膵臓を休ませることができ、血糖コントロールが改善したのちに経口薬治療に戻し、薬剤数を減らすことが可能になる場合もあります。血糖悪化の原因になる他の疾患の有無についても検査を行います。

昨年も、地域の医療機関からのご紹介も含め約 80 名の方が検査入院がありました。

◆チーム医療について

糖尿病の治療においては経口薬やインスリンなどの薬物療法だけでなく、食事療法や運動療法なども並行して行うことが重要となります。そのため医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など多職種が情報共有を行いながら連携して、患者さんを中心とした治療に当たります。

外来においても定期的に食事療法に対する栄養指導も行い、糖尿病性腎症がある方については糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師や栄養士及び医師による透析予防指導を適宜行います。

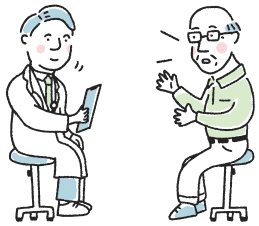
◆かかりつけの医療機関との連携

糖尿病については地域の医療機関でご治療頂いていることが多く、血糖コントロールが困難な場合や未治療糖尿病で血糖が高い場合などは、当院へご紹介を頂いております。

毎年 150～200 名程度のご紹介を頂いております。

ご紹介いただいた後、精査加療、場合によっては検査入院を行い、治療方針が確定したり、血糖が安定化した後は紹介元の医療機関でのご治療継続をお願いし、連携での治療を進めております。

今後、さらに地域の医療機関の先生方と連携し、地域の糖尿病診療の強化を進めて参ります。血糖コントロールについて調整が必要な場合はお気軽にご紹介頂ければ幸いに存じます。



病棟・部門紹介 No.19

3階病棟のご紹介

3 階病棟看護師長
西村　昌修

3 階病棟は、新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行したことに伴い、令和 5 年 10 月よりコロナ感染症病棟から小児病棟となりました。当院小児病棟の特徴として、小児一般急性期疾患では肺炎や喘息、感染症など様々な病児受け入れを行っており、特に流行性のある感染症患児が多いため、適切な感染対策を行い、安心・安全に入院生活を送れるよう治療・看護を行っています。また睡眠障害や起立性調節障害などで不登校となった学童に対して、入院による生活リズムを整えつつ、医療と教育の連携を図り、心とからだのバランスを整えながら隣接する黒石原支援学校に通えるよう支援しています。さらに重症心身障害児の在宅移行支援では、ご家族と共に安心して在宅で生活できるように、技術の獲得・社会資源の調整等を行っており、退院後は、家族の負担軽減を目的としたレスパイト入院を受け入れています。他にも、当院にはてんかん専門医が 3 名在籍しており、長時間のビデオ脳波検査入院等を受け入れています。長期時間のビデオ脳波検査ができる施設は少なく、当院は年間 60 ～ 90 例検査を実施しています。

9 月までは小児科は混合病棟であったことやコロナ禍であったため、様々な制限があり、季節に合わせたイベントの開催ができていませんでしたが、5 月よりコロナが 5 類に移行したことや 10 月以降小児病棟になったこと、広々としたプレイルームでの活動ができるようになったことで、様々なイベントが復活しており、毎月誕生日のお祝い、学童が主催するマルシェ、クリスマス会などの楽しいイベントを医師・看護師・保育士と共に企画しています。

私たちはこどもの直接的な支援と共に、様々な不安や悩みをかかえる家族が安心して育児にあたることのできる環境づくりが小児看護の役割であると考え、人としての尊厳と家族のありようを考えること、こどもの成長と発達を支えること、生涯にわたる健康の基盤づくり、こどもの苦痛緩和と健康管理、家族の支援といった内容を中心に心温かい看護を行っていきたいと思います。

開放型病院登録医紹介

さとう胃腸内科クリニック

院長／佐藤　信之

熊本県熊本市北区西梶尾町４５２-3
TEL 096-245-0093 FAX 096-245-4150
診療内容／胃腸科、内科、放射線科
診療時間／ 8:45～12:15
13:30～17:30（土曜日は午後休診）

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日・祝
8時45分～12時15分	○	○	○	○	○	○	×
13時30分～17時30分	○	○	○	○	○	×	×

さとう胃腸内科クリニック　佐藤院長先生には、平成２３年８月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

熊本市北区に位置し、消化器内科、内科を主体として地域の多くの患者さんの診療をされておられます。また、胃カメラや大腸カメラ、ＣＴ検査等の各種健診、ワクチン接種などを行っておられます。

病棟・部門紹介 No.20

地域医療連携室のご紹介

地域連携係長
積山　佳史

地域医療連携室は、地域の患者さんの受け入れや紹介に関して、県内外の病院や診療所等と密な連携を図り、熊本再春医療センターの総合窓口としての機能を果たしています。また、院内においては医療福祉に関することを中心に、入院や退院後の療養生活全般に関わるご相談や各種制度・サービスなどの調整を行う部署であり、当院から地域の医療機関や施設、在宅への橋渡しの役割を担っています。

現在、地域医療連携室には地域連携係長１名、副看護師長１名、看護師５名（内１名は入院支援室専従）、医療ソーシャルワーカー２名の９名が配置されています。毎年、院内外の研修にも積極的に参加し、地域情勢や社会の動向、保険制度などの最新の知識習得に努め、それぞれが専門性を持って業務に取り組んでいます。また、地域医療連携室では、地域医療連携室職員１名が２病棟を担当する専任体制を取っており、１名の職員が１人の患者さんの入院前から退院まで一貫した支援を行っています。

他にも、セカンドオピニオンに関する説明やがんに関する相談、入所相談、緊急避難入院の窓口まで、幅広い活動をしています。入退院に関すること、病気の相談、施設に関する情報提供依頼、悩まれていることはありませんか。どんな些細なことでも構いません。地域医療連携室に来ていただければ、ご相談をお受けいたします。一度足を運んでみられてください。お待ちしております。

開放型病院登録医紹介

下田内科クリニック

院長／下田　光一郎

熊本県熊本市北区鶴羽田3-14-23
TEL 096-345-5015 FAX 096-343-9933

診療内容／一般内科・呼吸器科・循環器科・消化器科、
ペインクリニック科
診療時間／ 9:00～12:30
14:00～18:00（土曜日は午後休診）

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時00分～18時30分	○	○	○	○	○	×	×

※受付は診療時間の30分前までになります。

下田内科クリニック　下田院長先生には、平成２３年８月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

熊本市北区国道３８７号線沿いに位置し、内科をはじめ、呼吸器科・消化器科・循環器科・麻酔科など、幅広い診療をされておられます。

麻酔科はペインクリニック科として痛みに対する診療をされておられます。

また、CT 検査や内視鏡検査、超音波検査をされておられます。

第77回国立病院総合医学会に行ってきました!!

放射線科 診療放射線技師長　大井　邦治

令和 5 年 10 月 22～21 日、第 77 回国立病院総合医学会が広島県広島市で開催されました。新型コロナウイルス感染症の収束を受け、4 年ぶりにフルバージョンでの実施となりました。約 6000 名が参加し、特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、一般演題（2,115 題の応募があった）が盛況に行われました。

私自身、これまで数回の学会参加経験がありましたが、今回は立場が変わり、技師教育に焦点を当てた発表を行いました。テーマは、「X 線撮影における再撮影の発生状況と要因分析 ～再撮影低減に向けた知識やスキルアップ支援策の提供～」です。デジタル化の進展に伴い、再撮影が増加し、患者への被ばく量が増えているという問題に対処するため、実例をもとに再撮影を回避する方法や、教育システムの提案を行いました。この研究はアプリケーションとして開発・提供され、現在は九州国立病院機構診療放射線技師会で積極的に活用されています。学びやすく、利用しやすい形で広まり、診療放射線技師の技術向上に大いに期待できることから、高い評価を受け、ベストロ述賞を受賞することができました。共同研究者とご支援いただいた皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

新しい発表会場はこれまでとは異なり、観客席内に設置されているため、新しい体験を提供してくれました。

会場のすぐ隣には原爆ドームがそびえ立ち、会場の活気とは対照的な平穏な風景が広がっていました。

次に国立病院総合医学会の楽しみは、何と言っても全員交流会ではないでしょうか。今年はなんと、広島県出身の歌手の島谷ひとみさんがオープニングを飾ってくれました。島谷さんは懐かしい名曲から最新のヒットまでを熱唱し、参加者を楽しませてくれました。会場は歌声に魅了され大変盛り上がっていました。

また、学会だけでなく会場周辺の観光も楽しみのひとつです。しかし残念ながら、会場近くの原爆資料館や宮島観光は時間の都合でゆっくり見ることができませんでした。次回は余裕をもってゆっくりとこれらの素晴らしい場所を訪れることができればと思っています。

最後に、発表やシンポジウムを通じて他の施設の皆様とのディスカッションができたことは非常に有意義な経験でした。異なる立場や視点からの意見交換は、新たな発見と理解につながりました。これらの貴重な機会を提供してくださった病院関係や学会関係の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

次回は大阪での開催が予定されています。皆様、ぜひ参加し、より一層の充実した交流と学びの場を共有しましょう。

第17回 熊本再春医療センター 健康フェスティバル

管理課長　濱口　仁博

第 17 回健康フェスティバルは、前回の開催が令和元年 9 月 29 日開催でしたので、４年振りの開催となりました。

今回の開催にあたっては、前回同様の内容で開催するか、今年度迄は中止するのか、規模を縮小して開催するのか院内で検討し、新型コロナ感染症の発生が続いている現状やインフルエンザの発生も増えていることから、講演のみと規模を縮小しての開催としました。

当日は、前日の雨で天候が危ぶまれましたが、朝から天気に恵まれ開催することが出来ました。

今回は対面での測定コーナーや各種催し物の開催を取りやめたため、広報活動も縮小しました、そのため参加人数は、外部から約 30 名、職員も約 30 名、合計約 60 名の参加となりました。

冒頭、上山院長から開会挨拶をしていただき、緒方副院長の座長で講演が始まりました。内科部長の栗﨑玲一先生に「パーキンソン病を知る！」、関連して管理栄養士の今村美咲先生に「すぐに実践できるパーキンソン病の食事の工夫」という内容で講演をしていただきました。

いずれも、分かりやすい内容となっており、参加者の皆さんからも好評でした。

また、１階の外来待合室には、入院中の患者さんの作品を集めた『南の芸術作品展』を展示し参加者が足を止めて鑑賞されていました。

来年度は、各測定コーナー（骨密度測定、血糖測定）などの催し物を再開し、たくさんの地域住民の皆さんに満足していただければと思います。

病院機能評価認定更新のお知らせ

副院長　緒方　宏臣

令和５年３月８日、９日の２日間にわたり、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価にかかる訪問審査を受審し、６月２日付で機能種別版評価項目 3rdG:Ver.2.0 の認定証が届きましたので、ご報告申し上げます。

病院機能評価とは、病院を対象に、組織全体の運営管理及び提供される医療について、日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行い、評価を通じて病院の質改善活動を支援する取り組みで、審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」となります。当院では、平成 20 年４月　病院機能評価 ver5.0 での初回認定を受け、その後、平成 25 年３月 ver6.0、平成 30 年７月 3rdG:Ver.1.1 と更新認定を受け今回で４回目の更新認定となりました。今回の認定証には病院機能評価の合格が４回目であることを示す星マークが４個描かれています。新たな改善の要望は無く、一発で合格できましたのは、約１年間にわたり病院機能評価の準備に努力を惜しまなかった病院職員のお陰であり、全職員に感謝したいと思います。合格はしましたが、指摘された改善事項もございますので、今後も引き続き病院の質改善に向けて努力を重ねて参りたいと思います。

『がんサロン再春』・『難病サロン再春』の再開について

地域医療連携室　笠　育美

この度、コロナ禍で休止しておりました「がんサロン再春」と「難病サロン再春」を再開することとなりました。

このサロンは、がんや難病で悩んでおられる患者さんとご家族が、お互いの不安や悩み、療養上の知恵や工夫などを気軽に話し合ってもらい交流していただくことを目的としております。

対象となられる方は、原則として当院を利用されているがんや難病の患者さん、介護者、ご家族、ご遺族ですが、ご利用者の紹介があれば参加可能です。参加者からは「相談の場があって嬉しい」や「経験上の話を聞いてもらうだけでも考えや行動の変容に繋がる」といった声が聴かれています。

会場や開催日時は下記の通りです。

詳細につきましては、事前に当院ホームページ、院内掲示板で開催日をお知らせするとともに、がんサロンネットワーク、がんサポートセンター、熊本県難病相談支援センター、難病家族会、地域の福祉課や社会福祉協議会などでも案内させていただきます。

3年半ぶりの再開のため、当面は当院地域医療連携室で運営をサポートさせていただきますが、ゆくゆくは患者さんやご家族の代表者とともに活動していくようになります。また、当院の緩和チームや医師、緩和ケア認定看護師やがん化学療法認定看護師、難病学会認定看護師、難病相談員なども支援いたします。

どうぞお気軽にお越しください、話を聞かれるだけでも大丈夫です。

場所：管理棟1F　「がんサロン・難病サロン室」

時間：がんサロン　第3木曜日 14:00～15:00

難病サロン　第1水曜日 14:00～15:00

問い合わせ先：地域医療連携室　TEL 096-242-1000（代）
FAX 096-294-1900

地域医療連携連絡協議会について

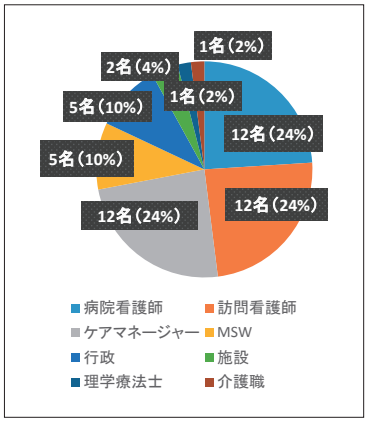
地域連携係長　積山　佳史

地域の医療機関、訪問看護ステーションや介護施設などの看護職・介護職とのより良い連携を図ることを目的とし、平成21年より地域医療連携連絡協議会が立ち上げられました。新型コロナ感染症の影響により、しばらく開催が出来ない状況にありましたが、今年の7月に4年ぶりの開催を果たすことが出来ました。

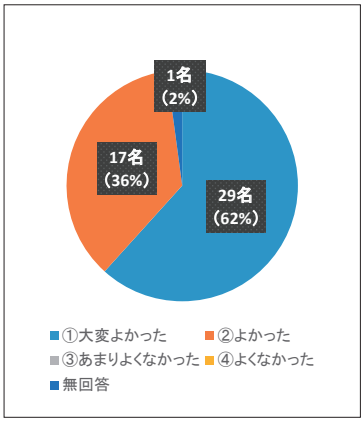
再開にあたり、以前の様に地域の皆さんに集まっていただけるのか不安な面もありましたが、30施設から50名の方が参加され、大変な賑わいとなりました。今回は「独居の神経難病患者さんの退院に向けての関わり」について当院の事例を紹介し、グループワークでは「高齢世帯（一人暮らしや高齢夫婦）への意思決定支援で気を付けていること」をテーマに話し合いを行いました。参加者からは、看護職、介護職、ケアマネージャーといった様々な立場から、患者さんの希望や意向を尊重した意思決定支援について意見が聞かれました。

終了後のアンケートでは「同じような悩みを持ちつつ、患者さんを支援している仲間がいると思うと、明日からまた頑張っていこうと思う」という意見も聞かれ、思いを共有できる場になりました。今後も患者さんが継続的な医療・看護・介護を安心して受けることが出来るよう、地域関連施設との連携を図っていきたいと思います。

当協議会におけるご意見・ご要望がございましたら、お気軽に地域医療連携室までご連絡下さい。



参加者の職種



協議会に参加しての感想